

原爆被災資料の収集・整理・保存の過去・現在と課題

～私の個人的体験から～

ノーモア・ヒバクシャ記憶遺産を継承する会学習懇談会（2012.10.20）レジメ
宇吹 暁（うぶき さとる）

はじめに～原爆被災資料への関心の誕生～

- <資料 0-1> 「広島」原爆記念文庫設置に就いて＝原爆資料保存会。
- <資料 0-2> 弔辞（庚午南町合同葬儀 1945年9月22日）＝広島平和記念資料館所蔵資料
- <資料 0-3-1> 日本被団協の被爆体験記など収集のよびかけ
- <資料 0-3-2> 日本被団協の「原爆被災体験資料」蒐集のための協力者の集まりのお願い
- <資料 0-4-1> 原爆被災資料総目録 第一集発刊に寄せて
- <資料 0-4-2> 原爆被災資料広島研究会のあゆみ

1. 広島県史編さん室（1970～76年勤務）

『広島県史 原爆資料編』（1972年3月刊）

『明治百年』（1968年）の広島県の記念事業

1971（昭和46）1月30日、『広島県史』編集作業、開始。

*時代状況

1972年2月1日 水爆被災資料センターの設置推進に関する準備懇談会。於原医研。

1973年10月13日～14日 第1回全国平和教育シンポジウム。於広島女学院中学校。

1974年11月24日 呉空襲を記録する会。於勤労会館。

*広島県が初めて原爆資料への関心を示した事業

今堀誠二の存在

*中央官公庁の調査体制

県庁資料の不在の穴埋め

*県内資料の悉皆調査

広島大学の歴史研究者（特に近世史）の存在

*オリジナルな文献資料

（その時点で作成されたもの、時間の経過により思想的ろ過のされていないもの）発掘

『原爆三十年 広島県の戦後史』（1976年3月刊）掲載写真の選定＝佐々木雄一郎。

<資料 1-1> 広島県史編さん室の原爆資料調査。

2. 広島大学原爆放射能医学研究所（1976年5月～2001年3月勤務）

*非医学畑の人脈＝志水清・渡辺正治・湯崎稔。

*レセプトの収集・整理・保存・廃棄（1985年7月末1149箱を溶解処理）。

（診療報酬明細書）利用の見通しが無い資料は消される。

*「爆心被爆生存者」に関する調査研究の一環として「特別患者検査入院」

*原爆爆心地復元事業

*広島大学原爆被災誌（医学関係）第1回打ち合わせ会（1976年6月26日）

（全学）編集委員会（7月23日）

『原爆と広島大学 生死の火学術篇』（広大原爆死没者慰霊行事委員会、1977年8月刊）

*原爆爆心地復元事業の後始末。

成果の出ない事業は消される。

*新聞切り抜き

・志水清所長の個人的切抜きから出発。

・宇吹が記事の選別を担当。＜朝日・毎日・読売・中国・長崎、途中から赤旗・社会新報・週刊民社・自由新報・公明新聞が加わる＞

・切抜き対象や記事分類でさまざまな意見。

*図書

・新聞で報道された書誌情報

・原爆資料館、広島市立中央図書館、広島県立図書館の収集図書

・購入図書の範囲と分類でさまざまな意見。

医学研究所の所蔵図書として『はだしのゲン』は適切かどうか。

*逐次刊行物

購入が困難。＜国有財産にすることの困難さ＝日本勧業銀行の口座が必要＞

受贈の手段としての『資料調査通信』の発行。

*第一次資料（多くは一点資料）

病理標本・カルテなどの医学資料を除く資料収集。

非医学的資料は、ほとんどがコピーとしての収集。

個人の研究資料として予算が認められた。

*藤居平一日本被団協初代事務局長との出会い＝1980年4月26日。

*一橋大学に文部省内地研究員として出向＝1980年5月1日～1981年2月末。

*平和会館資料借用（1987年7月～）。*吉川清資料借用（1989年4月～）

*ホームページ『ヒロシマ通信』開設（1998年4月～）。

1999年8月1日～6日のアクセス数90件。7日現在5173件。

手本・目標は <http://www.dannen.com/>

- <資料 2-1> 「公的機関・団体の原爆資料（非医学的資料）」（1992年2月）
- <資料 2-2> 広島大学原爆放射能医学研究所『原爆被爆者資料のデータベース化 平成4年度広島大学教育研究学内特別経費による研究報告』（1993年3月）
- <資料 2-3> 宇吹「原爆被害問題研究の恩師」（『人間銘木 藤居平一追想集』（藤居美枝子、1997年4月刊））
- <資料 2-4> 広島大学原爆放射線医科学研究所・広島大学図書館「原爆・被ばく関連資料データベース」

* 広島市・広島県・厚生省などによる被爆資料への取り組み

- 1977年4月30日 被爆問題国際シンポジウム広島準備委員会社会科学委員会（第1回）
- 1978年7月15日 広島原爆被災撮影者の会（於広島YMCA）
『広島壊滅のとき—被爆カメラマン写真集』（1981年刊）
- 1984年9月 財団法人広島平和文化センター原爆被災資料調査研究委員会
- 1986年5月 広島県戦災史編集委員会<『広島県戦災史』（1988年6月刊）>
- 1988年4月 財団法人広島平和文化センター原爆映画製作委員会
- 1988年9月 中国地域データベース推進協議会データベース標準化部会
- 1989年11月 財団法人広島平和文化センター平和関係施設調査研究委員会。
- 1991年7月 広島市被爆建物等継承方策検討委員会
- 1992年9月 厚生省委託原爆死没者慰霊等調査研究啓発事業
原爆資料および情報ネットワーク委員会・被爆者対策資料小委員会
- 1992年9月 広島県旧陸軍被服支廠保存・活用方策懇話会
- 1993年3月 広島市博物館（仮称）展示検討委員会専門部会
- 1994年12月21日 広島市「米国スミソニアン協会航空宇宙博物館の特別展について意見を伺う会」
- 2004年10月 広島平和記念館更新計画検討委員会
- 2008年10月 広島女学院大学栗原貞子記念平和文庫開設。
- 2010年8月 広島平和記念資料館展示検討会議
- 2011年4月 財団法人放射線影響研究所歴史資料管理委員会
- 2011年12月 ノーモア・ヒバクシャ記憶遺産を継承する会

- <資料 2-5> 第1回社会科学委員会（広島）議事録（文責 宇吹）
（被爆問題国際シンポジウム広島準備委員会）

- <資料 2-6> 広島原爆被災撮影者の会の初会合（宇吹メモ）

3. 成果と課題～宇吹の個人的作業より～

a. 原爆報道

国会図書館新聞切り抜き閲覧室。中国新聞社。朝日新聞社。長崎県立図書館（長崎日日新聞、長崎民友。長崎新聞）

<資料 3-1> 「商用データベースと『原爆・被爆』情報」（『広島医学』47-3、1994年3月）

<資料 3-2> 平和記念資料館メルマガ第98号（2011/ 9/ 1）

b. 平和行政

1988年4月 財団法人広島平和文化センター専門委員

『平和記念式典の歩み』（1992年刊）

c. 原水禁運動

世界大会関係資料＝まとめて所蔵する個人・機関はなかった。

運動団体は資料保存に無頓着。＜マスコミ関係者も＞

d. 原爆被爆者対策・被爆者運動

<資料 3-3> 『原爆モニュメント碑文集』（原爆モニュメント研究グループ編・刊、1978年）

<資料 3-4> 『原爆手記掲載図書・雑誌総目録 1945－1995』（宇吹 暁編著、日外アソシエーツ、1999年）

<資料 3-5> 「原爆被害者の証言と平和教育－文集を読んだ感想にかえて」（『若い世代に被爆体験を語り継ぐために－平和学習の感想文集』（被爆体験証言者交流の集い世話人会、1993年）所収）

おわりに

「ノーモア・ヒバクシャ記憶遺産」への期待

*目標は「悉皆」、実行は足元から。

*約22万人（被爆者手帳の所持者）＋約43万人（広島・長崎両市の死没者名簿計）
＝約65万人。

*2012年3月末現在で原爆手帳所持者数が100人未満の県＝秋田37人、岩手・山形各47人、青森67人、福井76人、富山85人、福島86人、山梨98人。